

ニセナシサビダニの休眠期防除における効率化の検討

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

ニセナシサビダニ（以下、サビダニ）は、ナシの新梢に寄生しサビ症状を引き起こす微小害虫である。近年では、従来のサビ症状に加えて、初期被害であるモザイク症状が顕在化している。モザイク症状は、サビダニの寄生密度が低い4月以降の加害により発症すると考えられているため、3～4月の防除強化が必要と考えられた。

サビダニの防除法として、休眠期の薬剤散布により発生初期の密度を低減する手法がある。ここでは、モザイク症状の軽減を目的に、休眠期散布の効果が高い「水和硫黄剤（商品名：コロナフロアブル）」と「マシン油97%乳剤（商品名：ハーベストオイル）」との混用の効果を確認し休眠期防除の強化を検討した。

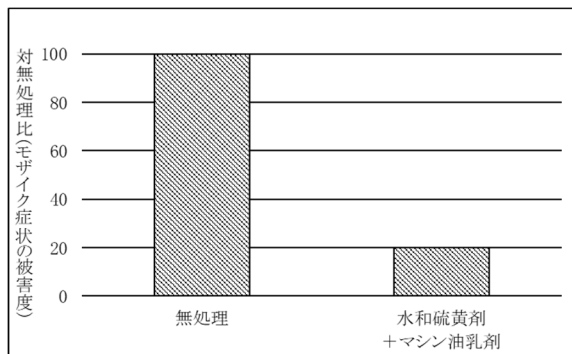
(2) 情報・成果の要約

- 1) サビダニの休眠期対策としてマシン油乳剤を散布する際、水和硫黄剤を加用することで防除効果が向上し、モザイク症状の発生量を軽減できる。
- 2) 試験薬剤の薬害は認められなかった。

2 試験成果の概要

- (1) 2021～2022年に、品種‘ゴールド二十世紀’を用い、サビダニ初期被害（モザイク症状）の軽減効果を検討した。
- (2) 薬剤はマシン油97%乳剤の100倍液及び水和硫黄剤の500倍液を用い、散布時期は、発芽前（3月中旬）とした。
- (3) サビダニ初期被害に対し、マシン油乳剤と水和硫黄剤の混用散布は、無処理と比較して優る効果を示し、マシン油乳剤の単用散布と比較して優る効果を示した（図1）。
- (4) 試験期間を通して、試験薬剤の散布による薬害は認められなかった。

2021年度調査結果



2022年度調査結果

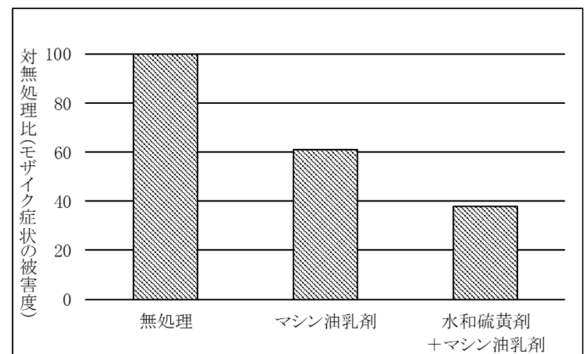


図1 サビダニに対する防除効果

2021～2022年に、品種‘ゴールド二十世紀’を用い、サビダニ初期被害（モザイク症状）の軽減効果を検討した。3月中旬に薬剤を散布し、6月上旬に新梢全葉をモザイク症状の被害程度別に調査した。

左図は2021年度の調査結果、右図は2022年度の調査結果を示す。
対無処理比=無処理を100とした場合の各種薬剤における被害度の比率

3 利用上の留意点

(1) 水和硫黄剤（商品名：コロナフロアブル）の農薬登録は以下の表を参照。

表1 水和硫黄剤の登録内容*

作物名	種類名（商品名）	適用病害虫名	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数
日本なし	水和硫黄剤 （コロナフロアブル）	ニセナシサビダニ	500 倍	—	—

* 2023年1月末現在

4 試験担当者

（ 環境研究室 研究員 古井 佑樹 ）
（ 環境研究室 室長 米村 善栄 ）